

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：82512

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K17015

研究課題名（和文）地域安全保障と地域機構の紛争関与：アジアとアフリカの対照性の要因分析

研究課題名（英文）Regional security and intervention by regional organizations: Asia and Africa compared

研究代表者

鈴木 早苗（Suzuki, Sanae）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター東南アジア I 研究グループ・研究グループ長代理

研究者番号：30466073

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：冷戦終結後、地域機構がその地域における安全保障上の脅威に対処することが多くなった。地域紛争として特に多いのは、その地域の国々で勃発する内戦と周辺国への負のスピルオーバーである。本研究は、地域機構がそうした地域紛争にどのような条件下で関与するのかを加盟国間の利害調整の視点から分析することを試みた。

西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）と東南アジア諸国連合（ASEAN）を事例として取り上げ、前者が地域紛争への介入に積極的なものに対し、後者は消極的であるのは、加盟国間の国家の強靱性に対する共通認識の違いがあるからだという結論を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アジアとアフリカの地域機構を比較対象として、紛争関与において違いが見られるのはなぜかを地域固有の属性に帰するのではなく、そのメカニズムを解明することに取り組んだ。特に注目したのは、各地域機構の加盟国の間で、紛争関与についてどのような相互作用がなされ、集団的意思決定としての紛争関与（または不関与）がなされているのかであった。西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）と東南アジア諸国連合（ASEAN）を事例に、その比較の中で明らかになったのは、国家の統治能力について共通認識が紛争関与に関する意思決定に影響を与えているという点である。

研究成果の概要（英文）： Since the end of the Cold War, regional organizations have involved in conflicts in regions where they are located. Even with this trend, there are differences on how frequent and strong regional organizations have committed to intervention in regional conflicts. This study aims to explore dynamism of intervention by regional organizations, in particular, under which condition they tend to intervene in regional conflicts.

It can argue that intervention by regional organizations be analyzed by a shared understanding on state strength among member states. Taking Economic Community of West African States (ECOWAS) and Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) as cases, this study comes to the conclusion that ECOWAS member states share an understanding on weakness of states, whereas ASEAN member states share on strength of states, whether or not these understandings could be against objective data on state strength.

研究分野：比較地域機構

キーワード：地域機構 ASEAN ECOWAS 紛争関与 地域安全保障

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

冷戦終結後、地域機構がその地域における安全保障上の脅威に対処することが多くなった。地域紛争として特に多いのは、その地域の国々で勃発する内戦と周辺国への負のスピルオーバーである。

地域機構の紛争関与に関する先行研究は大きく分けて三つある。第一に、紛争が隣国あるいは地域全体に波及する負の性質を持つとき、地域機構は紛争に関与しやすいというものである。第二に、国内政治が不安定だと当該国の政権は政権の維持のために地域機構の関与を求める結果、地域機構の関与がなされるとする。第三に、地域機構内の大国が紛争関与に積極的であれば、地域機構の関与は実現しやすいと主張する。

しかし、どの視点も地域機構の加盟国が紛争関与をめぐって利害が異なる点を軽視している。地域機構として紛争に関与するという決定は、地域機構の加盟国間でなされるのであり、こうした意思決定過程をみることが紛争関与のメカニズムを知るうえで重要だと考えられる。

2. 研究の目的

紛争関与のメカニズムを解明するため、本研究の目的は、利害が異なる加盟国同士が、地域機構として紛争に関与するかをどのように決定しているかを分析することにある。地域機構は地域安全保障に関わる紛争に積極的に関与するようになったが、関与の積極性は各地域機構で異なる。特に、地域安全保障に関わる紛争に対し、アフリカでは地域機構が紛争に介入する事例が多く観察されるのに対し、アジアではそうした実践は限定的である。対照的な紛争関与を実施するアジアとアフリカの地域機構は、地域機構の紛争関与のメカニズムを解明する上で格好の事例を提供する。

本研究は、アフリカとアジアの地域機構を事例にこの違いが生ずるのはなぜかについて、加盟国間の利害対立と調整の過程に注目して分析することで、地域機構による紛争関与のメカニズムを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、アジアとアフリカの地域機構の公式文書などの一次資料や、地域機構の諸機関および加盟各国の政策担当者へのインタビューに基づいて実証分析を行う。まず、地域機構の紛争管理に関与する非政府組織 (NGO) や調査研究を行う研究機関での資料収集や担当者へのインタビューを通じて、地域機構の紛争関与メカニズムに関する分析枠組みを構築し、アフリカの地域機構に関して事例を選定する。

次に、アジアとアフリカの地域機構について一次資料を収集し、現地調査において、政策担当者へのインタビューを実施する。最後に、分析結果をまとめ学術雑誌に投稿する。また、得られた成果を政策提言の形にまとめ発表する。

4. 研究成果

(1) 本研究では、当初、アフリカの地域機構としてアフリカ連合 (AU) を事例として取り上げることを想定していた。しかし、アジアの地域機構である東南アジア諸国連合 (ASEAN) との比較を想定した場合、加盟国数やその地域機構がカバーする地理的範囲の違いから、AU よりも西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS) を事例として取り上げる方が適当であるとの結論に至った。文献調査、一次資料の収集、現地調査などを通じて、ECOWAS が地域紛争への介入に積極的なのに対し、ASEAN が消極的であるのは、加盟国間の国家の強靭性に対する共通認識の違いがあるからだという結論を得た。具体的には、ECOWAS は国家の強靭性に対する疑義が加盟国間で共有されているため、紛争関与、特に軍事介入を実施しやすい。ASEAN では国家の強靭性に対する信頼を加盟国が共有しているため、内政不干渉原則の墨守が主張される傾向にある。

(2) 以上の結論を念頭に置きながら、最終年度は関連するテーマで三つの論文を執筆した。一つは、Why is ASEAN not intrusive? Non-interference meets state strength と題する論文で、2019年に Journal of Contemporary East Asia Studies に掲載された。この論文は、アフリカの地域機構の紛争関与から得られた知見を踏まえ、ASEAN の紛争関与がなぜ控えめなのかを国家の強靭性の観点から分析した。ASEAN が位置する東南アジア地域は他の地域に比べて平和な地域と評されることもあるが、実際には地域安全保障を脅かす様々な問題が生じている。具体的には、ミャンマーのロヒンギヤの難民問題、カンボジアとタイの国境画定紛争、タイ南部のイスラム過激派の問題などである。こうした問題に対し、ASEAN 加盟国は ASEAN の会議で幾度となく話し合いを重ねており、加盟国のなかには、ASEAN が重視してきた内政不干渉原則を改め、ASEAN としての関与を強化すべきだという意見も出された。しかし、結果的に、加盟国の認識が収斂したのは、紛争当事国の問題処理能力 (国家の強靭性) を期待できるというものだった。問題の解決は当事国に任せられ、人権侵害などの問題は国際問題化されてはいるものの、ASEAN として積極的な関与をするという決定には至っていない。この論文のポイントは、国家は強靭であるという共通理解が確立している点であって、実際にその当該国家が統治能力を維持しているかは問題

ではない。より一般的に言えば、紛争関与は加盟国間の共通認識の中身に左右されるという点をこの論文は示唆している。

(3) 二つめの論文は、ECOWAS と AU の紛争関与における相互作用を分析したもので、学術雑誌に掲載の予定になっている。先述したように、ASEAN と比較するアフリカの地域機構としては ECOWAS が適切な事例だと判断した。しかし、AU に紛争関与の役割がないわけではない。AU と ECOWAS について資料を集めていくうちに、西アフリカ地域の紛争においてこの二つの地域機構が関与し、役割分担を探っている様子を観察することができた。つまり、一つの地域機構の紛争関与は、隣接する地域機構の行動によって影響を受けることもある点を明らかにすることによって、紛争関与のメカニズムの解明という本研究の目的をより追求できると考えた。論文では、AU と ECOWAS の関係を公式に位置付けた 2008 年の覚書の発表以降の、西アフリカ地域の紛争に対する AU と ECOWAS の行動と相互作用を分析した。具体的には、ギニア、ニジェール、コートジボアール、マリ、ギニア・ビサウの内戦や政治的危機への ECOWAS と AU の関与の仕方の特徴づけ相互の関係を分析した。関与の仕方として、外交的関与、調停、軍事介入の三つの類型を想定した上で、上記の国々の紛争への関与を通して、当初は調停機能を果たそうとして AU は次第に外交的関与にその役割を限定するようになった一方、ECOWAS は、この三つの関与を継続的に実施しつつ、外交的関与については AU と共同歩調をとるようになったと結論づけた。アジアでは、このような地域機構間相互作用は明示的にはまだ見られないが、今後、アジアで新しい地域機構が誕生する、あるいは、上海機構などの既存の地域機構の役割拡大などによって、ASEAN との相互作用が見られるようになるのかもしれない。この点において、本論文の分析は、比較地域機構研究にも有意義な示唆を与えていると考える。

(4) 最後の論文は、ECOWAS が持続的に紛争関与を実施している（できている）背景を探ったもので、英文校正を終了し、学術雑誌に投稿する段階にある。先述したように、地域機構の紛争関与は、その地域機構の加盟国間の共通理解や認識によって実施の是非が検討されるとの結論を得た。この論文は、ECOWAS を事例にこの点をさらに深く分析しようとするものである。ECOWAS は世界の地域機構の中でも紛争関与を積極的に行ってきた。紛争関与が持続的になされている理由は、加盟国間の相互作用の中にあると考え、関連する資料などを検討した結果、紛争の関与の仕方について加盟国間で共通認識が確立していること、紛争関与におけるコスト負担に対するコミットメントが確保されていることなどが明らかとなった。より具体的には、調停を試みたのちにそれが失敗したら、軍事介入を実施することを互いに確認し、その関与について加盟国がそれぞれコストを負担することが確認されているということである。特に、後者については、多くの先行研究で地域大国・ナイジェリアのコスト負担が指摘されていた。しかし、本論文は多くの紛争関与について、ナイジェリアだけでなく、ほかの加盟国も軍事介入のコストを負担していることが分かった。加盟国は ECOWAS の紛争関与における主体性を高めてきているといえる。

(5) いずれの論文も英語での成果発表である。海外のアフリカ研究者や東南アジア研究者からのコメントを踏まえて執筆できたことで、学術雑誌への掲載のスピードを高めることができた。研究期間全体を通して、非常に効率的かつ有益な調査と分析を実施できたと考える。特に、アフリカの地域機構 AU と ECOWAS の本部（エチオピアのアディスアベバとナイジェリアのアブジャ）を訪れ、現地調査を実施できたことは比較の視点を養うのに役に立った。上記の論文は、ASEAN と ECOWAS ・ AU を比較する形を取っていないものの、比較の視点に立ってそれぞれの事例を分析した点で、これまでの業績とは性質を異にするのものであると考える。今後、これらの論文をもとに、二つの地域の地域機構を比較する論文を執筆する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 269
2. 論文標題 等身大のASEAN像とは？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア研ワールドトレンド	6. 最初と最後の頁 22～23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Sanae	4. 巻 8
2. 論文標題 Why is ASEAN not intrusive? Non-interference meets state strength	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 157～176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/24761028.2019.1681652	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Sanae Suzuki
2. 発表標題 Exploring the roles for West African conflicts by the AU and ECOWAS
3. 学会等名 SUMMER SCHOOL GRADUATE SCHOOL GLOBAL AND AREA STUDIES (GSGAS) Imaginations, Construction and Staging of Space in Global Processes Leipzig University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sanae Suzuki
2. 発表標題 The Learning Process of Collaboration and Conflict between the AU and the ECOWAS for Conflict Management
3. 学会等名 8th Annual African Interdisciplinary Studies Association (AISA) International Interdisciplinary Conference Africa at Development Crossroads Multimedia University of Kenya Hotel (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sanae Suzuki
2. 発表標題 International Actors for Legitimacy: The Case of the ECOWAS Interventions
3. 学会等名 8th Annual African Interdisciplinary Studies Association (AISA) International Interdisciplinary Conference Africa at Development Crossroads Multimedia University of Kenya Hotel (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木早苗
2. 発表標題 地域機構の紛争関与：アフリカとアジアの比較
3. 学会等名 アジア経済研究所 地域研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 鈴木早苗
2. 発表標題 地域機構の紛争関与 アジアとアフリカの対照性の要因分析 -
3. 学会等名 駒場国際政治ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 鈴木早苗
2. 発表標題 地域機構の紛争関与 アジアとアフリカの対照性の要因分析 -
3. 学会等名 「平和維持活動をめぐるガバナンスの変容」研究会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 鈴木早苗（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 187
3. 書名 ASEAN共同体 政治安全保障・経済・社会文化	

1. 著者名 大庭三枝（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 272 (P. 97 ~ P. 120)
3. 書名 東アジアのかたち 秩序形成と統合をめぐる日米中ASEANの交差	

1. 著者名 石川幸一・清水一史・助川成也（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 355 (P. 51 ~ P. 65)
3. 書名 ASEAN経済共同体の創設と日本	

1. 著者名 山本信人（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶応大学出版会	5. 総ページ数 344 (P. 203 ~ P. 218)
3. 書名 東南アジア地域研究入門 3 政治	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----